

なかよし

天童中部小学校
いちょう学級
R4.9.30
No.16

いちょう学級では、縦割り学年編成のチームで、それぞれの実態に合わせた学習を重ねています。今回はチーム学習を通して自分らしく伸び続けている子ども達の様子を紹介します。

前期をふいかえって ～チーム学習編～

チームでは、曜日ごとにテーマを決めて学習に取り組んでいます。子ども達が好んで学習するのが水曜日の“水の実験”です。実験の日は、テキスト通りに行う基本編と、その過程で生じた疑問を追究する挑戦編の二段階で、子ども達が自分で動いて学習を進めていきます。

前期の学習で最も印象的だったのが、水と油の性質を利用した『炭酸マグマ』の実験でした。



真剣に学習する姿は、まさに科学者です。炭酸マグマが発生する様子を観察しながら、Nさんは「ぬるま湯じゃなくて、冷たい水だったら、どうなる？」とつぶやきました。少し考えてから、「よし！やってみるか！」と自分から新しい実験をはじめました。

Nさんのチャレンジをきっかけに、子ども達の挑戦編（自由研究）がスタートしました。

「ペットボトルを振ってみたら、どうなるのかなあ？」と渾身の力で振りはじめたSさん。「ん～。混ぜると思ったのに、変だな…。」と考えこんだ後、「水が足りないのかな。」と水の量を増やして再挑戦。「違うなあ。油が足りないのかな。」と次は油の量を増やして再挑戦。量を微調整しながら、自分の納得がいくまで実験を続けていました。



実験の学習を通して、理科の知識だけではなく、手順の説明文を読んで理解する力（国語）や分量を正確に測る力（算数）も合わせて伸びたことが前期の成果でした。

子ども達の発想は実にユニークです。まるで“面白くて、考えさせてくれる研究”（イグノーベル賞）のようです。一見すると役に立たないような研究こそが実用的であり、商品化されて、社会に貢献しているケースもあります。この実験が大発見につながることを期待しながら、後期も子ども達が自分らしく伸びることができるよう支援していきます。

本日、通知表をお渡しいたしました。お子さんと一緒に前期の生活や学習を振り返り、お子さんの伸びを共に喜んでいただければ嬉しいです。